

まさか私が

横 井 和 彦

奨励者紹介[よこい・かずひこ]

同志社大学キリスト教文化センター所長

同志社小学校長

同志社大学経済学部教授

[研究テーマ] 経済のグローバル化と中国経済

夕方になると、イエスは十二人と一緒にそこへ行かれた。一同が席に着いて食事をしているとき、イエスは言われた。「はっきり言うておくが、あなたがたのうちの一人で、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ろうとしている。」弟子たちは心を痛めて、「まさかわたしのことでは」と代わる代わる言い始めた。

(マルコによる福音書 14 章 17—19 節)

2020年度は、入学式の中止、そしてネット配信授業のみの春学期、レポート試験の春学期末試験と、特に1回生の皆さんにとっては、予想外の大学生活のスタートとなってしまいました。しかしながら、ようやく秋学期からは対面授業が再開することとなり、皆さんが登校してくるようになりました。寂しかったキャンパスに、にぎやかさが戻ってきました。2回生以上の皆さんにとってはこれまでの大学生活に戻ったわけですね。

しばらく前までは、皆さんは自分自身が大学に通えなくなるなどということは考えられなかったのではないのでしょうか。ところが、それが今、日本中で、そして世界中で多くの人の現実になりました。大学に通いたくても通うことができなくなったのです。

ところで、「日本の大学進学率は低い」、そんな話を耳にしたことはないのでしょうか。「アメリカなどと比べると低い気もする」や、「日本でも最近ではほとんどの人が大学に進学するからそんなことはないはず」など、さまざまな意見がありそうです。大学進学状況を把握するのに、よく使われる指標が文部科学省による学校基本調査です。2019年に行われたこの調査によると、大学等への進学率は58.1%にも及びます。大学「等」とされるのは、大学以外に短期大学や高等学校の専攻科を含んでいるためです。ちなみに、大学と短期大学の内訳はどのようになっているのでしょうか。これは大学の比率が圧倒的に大きく、58.1%のうちの53.7%は大学進学、残り4.4%が短大進学となっています。

このように、今や2人に1人以上が大学や短期大学に通う時代になりました。過去から振り返ってみても、1954年に統計が発表されて以来、その数字はなだらかに上昇し続け、2005年の時点で50%を超えています。1954年時点では、大学や短大への進学率がわずかに1割であったことを踏まえると、人々にとっての大学の立ち位置が年々変わりつつあると言えるでしょう。つまり、進学者のうちの9割以上は大学に進学しているということです。ちなみに、大学等への現役進学率は54.8%なので、現役で進学する人が多いようです。

では、2人に1人以上が大学に進学するという日本は、他国と比べて進学率が高いのでしょうか。世界全体で見ると、発展途上国ではまだまだ1桁台の進学率の国々があります。そこで、日本と似た経済状況にある国と比較するため、OECD加盟国の数値を見てみましょう。OECDデータを参考に文部科学省が作った2010年の資料によると、1位はオーストラリアで、96%とほぼ100%に近い数字を出しています。このデータで、OECD平均は62%です。調査当時の日本の大学進学率が51%であることを考慮すると、増加傾向にある日本の進学率も他国と比較するとまだ低いと言えるでしょう。

ちなみに、同じアジア圏の韓国は71%で、日本を大きく上回る結果となっています。また、日本人に馴染みのある国としては、イタリアやドイツが日本より下位に位置しています。

2人に1人が大学に進学すると言いますが、実は地域差が大きいです。2016年のデータでは、東京都の大学進学率が72.7%と高い水準にある一方、鹿児島県は35.8%で30%以上の開きがあることが分かります。では、なぜ東京都では4人に3人近くもの若者が大学に進学するのでしょうか。大学進学が当たり前になったとはいえ、進学には費用が伴うことから経済的ゆとりが必要になります。そういう意味では、平均年収が都道府県で最も高い東京都が進学率も高くなっているのだと思われます。

さらに、女性の進学が当たり前になりましたが、日本では2019年の男子の大学進学率が56.6%、女子が50.7%とまだ少し差があります。一方、短期大学への進学率は男子が1.0%、女子が7.9%です。なお、世界各国を見てみると、北欧諸国を中心に女子の大学進学率が男子を上回っている事例もあります。日本でも、高校進学率では女子の方が男子を若干上回っているのですが、今後日本の大学進学率においても、男女比の構造に変化が生じるかもしれません。

さて、このように大学で学ぶということに対しては社会的・経済的な視点で語られることが多いのですが、今回新型コロナウイルス感染症問題は、違う意味で多くの人から学ぶ喜び、学ぶ権利を奪ってきました。同志社大学の皆さんも、間違いなくその1人になったのでした。ようやく秋学期から元に戻ることができました。1回生の皆さんも楽しみにしてきた大学生活が始まります。しかし決して油断をしてはいけません。まだまだ新型コロナウイルス感染症問題は終わっていません。この病気はもうしばらく、いやもしかしたらこれからずっと続くのかもしれない。

今日の聖書では、イエスさまがもうすぐ弟子の中の一人が自分を裏切ることになると言われました。イエスさまの言葉に弟子たちは、自分はそんなことはしないと、お互いに言い合いました。「自分は違う、そんなことはしない」「まさか私ではないでしょ」と。しかし聖書は、そのまさかに自分がいつてもなる可能性があると言っているのです。新型コロナウイルス感染症問題を乗り越えるために求められているのは、この感覚ではないでしょうか。

まさか私ではないでしょ、の気持ちが自分から大切なものを奪っていくのです。まさか自分はうつらないでしょ。うつるはずがないでしょ。人にうつすはずがないでしょ。私には関係ないでしょ。新型コロナウイルス感染症は、私たちにそう思わせ、そして大切なものを奪っていくのです。それが皆さんにとっては、学ぶ喜びであり、学ぶ権利になるのです。これまで学ぶ権利を奪うものは社会的・経済的問題とされてきましたが、個人の考え方や行動が直接的にこうした問題とつながるようにしたのが新型コロナウイルス感染症の拡大のもう一つの側面だと思うのです。

さて、いよいよ本格的に大学生活が始まります。まずはDUETで時間割表を見てみましょう。その一つひ

とつに真正面から取り組み、講義や演習にきちんと向き合ひましょう。自分の方から学ぶ喜びと学ぶ権利を捨てないようにしましょう。そして学ぶ喜びと権利を奪わない、奪われない、その気持ちを大切に、大学生活を送りましょう。それが新型コロナウイルス感染症問題を前にした私たちにできることの第一歩だと私は思います。あらゆるところに消毒液が置かれ、教室には着席制限があり、情報教室や食堂にはついたてが立ち並んで異様な光景となっています。大学もできる限りの手を尽くして学びの場を守ろうとしているのです。

〔参考文献〕

文部科学省「令和元年度学校基本調査(確定値)の公表について」2019年

(https://www.mext.go.jp/content/20191220-mxt_chousa01-000003400_1.pdf 最終閲覧日 2020年9月29日)

文部科学省「平成25年3月15日開催 産業競争力会議 下村大臣発表資料 人材力強化のための教育戦略10」2013年

(https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/giji/_icsFiles/afieldfile/2013/04/17/1333454_11.pdf 最終閲覧日 2020年9月29日)

文部科学省「平成29年7月28日開催 将来構想部会(第9期～)(第3回)配布資料5—1 高等教育に関する基礎データ(都道府県別)①」2017年

(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/042/siryo/_icsFiles/afieldfile/2017/08/01/1388715_05.pdf 最終閲覧日 2020年9月29日)

2020年9月30日 今出川水曜チャペル・アワー「奨励」記録